

第1章 策定の趣旨と位置付け

1-1 策定の背景

近年、日本の水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

社会的動向としては、2015年時点で1億2,709万人の人口が2053年には1億人を下回る見通しである人口の減少、世界でも例をみない高齢化の進行、地方都市の過疎化、情報通信技術の進歩、AI技術の進化、東日本大震災や熊本地震、頻発する豪雨災害などの自然災害の増加が挙げられます。

水道事業においても、人口減少に伴う給水収益の減少、高度経済成長期に集中して整備を行った老朽化が進む施設の更新費用の増大、大規模地震に備えた水道施設の耐震化など事業を取り巻く環境が大きく変化しています。また、事業の広域化や官民連携など多様化した経営手法への対応が必要となっています。

このように、現在、水道事業が直面している課題は多数存在しており、その課題に対処するための事業費の確保など計画的な対応が求められています。

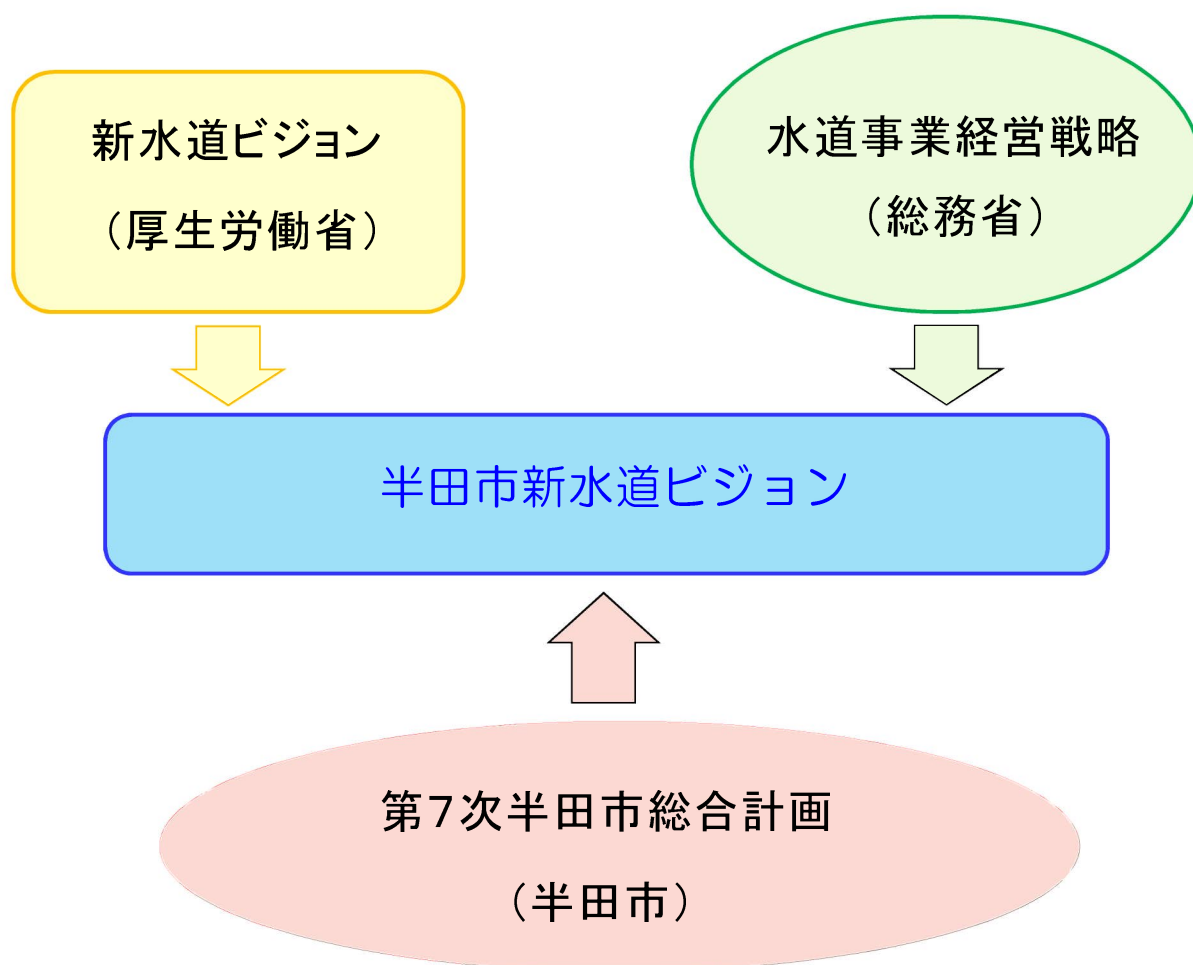
厚生労働省では、これら水道事業を取り巻く環境の変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン」（平成16年策定、平成20年改訂）を全面的に見直し、「新水道ビジョン」（平成25年3月）を策定しました。

「新水道ビジョン」は、「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」という基本理念のもと、国民の生活や経済活動を支えてきた水道の恩恵をこれからも享受できるよう、今から50年後、100年後の将来を見据えた水道の理想像を明示し、今後、取り組むべき事項、方策を定めており、水道水の安全の確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と表現しています。

半田市の水道事業は、昭和5年の創設から現在まで90年以上が経過し、これまでの整備拡張から維持管理へと移行してきています。また、平成20年度の「半田市水道ビジョン」の策定から10年以上が経過しており、上記の通り事業を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、この度「半田市新水道ビジョン」を策定し、国が示す基本理念である「安全」、「強靱」、「持続」を具現化するため、今後の目指すべき方向性、その実現方策を提示するものです。

1-2 本ビジョンの位置付け

半田市新水道ビジョンは、厚生労働省が示した我が国の水道行政の方向性を示した「新水道ビジョン」や市の上位計画である「第7次半田市総合計画」との整合を図り、水道事業が直面する様々な課題への対応等について示した計画となります。本ビジョンに基づき、安定した事業を将来に渡って継続することを目指します。



1-3 計画期間

本ビジョンの計画期間は、令和3年度～令和12年度までの10年間とします。